

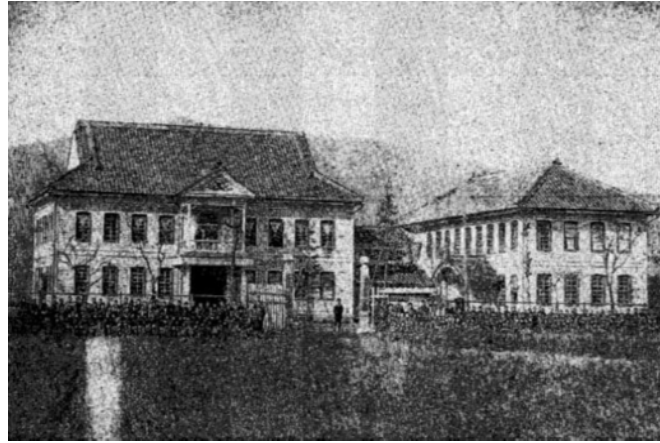
千曲市指定文化財

屋代小学校旧本館

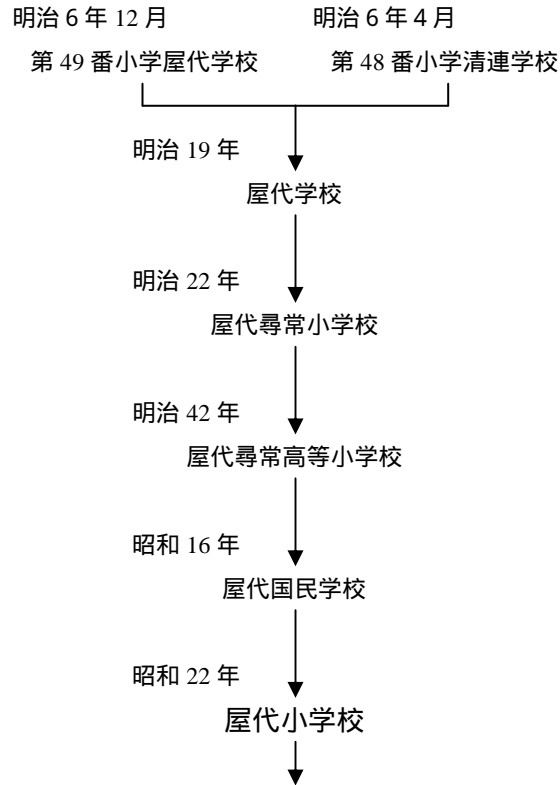


千曲市教育委員会

< 明治 30 年代と思われる屋代学校の全景 >



屋代小学校沿革の概要



周辺地図



所在地 長野県千曲市大字屋代 2,111 番地

開館 平日 午前 9 時 ~ 午後 4 時
* 屋代小学校事務室へ申し出てください。
屋代小学校 026-272-0037

交通案内
しなの鉄道「屋代駅」より徒歩 8 分



この建物は、明治21年(1888)の建築で、明治中期の学校建築の様式を示し、長野県内でも数少ない貴重な文化遺産です。昭和53年(1978)3月まで、屋代小学校の本館として使われていました。

屋代尋常小学校の建設

屋代尋常小学校の前身は、明治6年(1873)矢代宿の旧本陣に開校しましたが、時が経つにつれて手狭となり、松崎問屋に支校が置かれるようになりました。

やがて、本格的な学校の建設を求める声が上がりました。明治21年(1888)若林忠之助町長のときに、現在の屋代小学校旧本館が屋代尋常小学校の校舎として新築されました。

敷地及び建設経費は以下の通りでした。

敷地 994坪 校舎 276坪

経費 3,776円31銭

「沿革史 屋代学校」より

「擬洋風建築」校舎の特徴

屋代尋常小学校の校舎は、明治文明開化を象徴する擬洋風建築で、明治の学校建築を代表する建物です。

校舎は木造二階建てで、正面玄関につきだした車寄せを設け、その屋根の破風を彩色した花や唐草で飾り、円柱を立てています。階上は高欄付きベランダとし、四隅に飾り持ち送りを入れ、網代天井としています。

また、建物外壁を下見板張りにしてペンキ塗装を行い、窓を洋風窓としています。屋根は、伝統の入母屋椼瓦葺にしています。こうした洋風建築を「擬洋風建築」と呼んでいます。

内部は、中廊下とし、教室を両側に設けるのは、当時の学校建築の一般的な方式でした。

< 擬洋風建築の特徴 >

- 正面玄関につきだした車寄せ
階上は高欄付きベランダとし四隅に飾り持ち送りを入れ、網代天井となっている。
- 玄関ポーチの天井周りに板を切って打ち付けてあるパーチボード
このルーツは西ヨーロッパ、北欧、北アメリカから渡ってきたものです。
- 三角破風
三角ペグメントといってギリシャの神殿建築に発生して、イギリス、アメリカを通して屋代の地まできています。
- 下目板張りの外壁
建物の外壁は下目板張りと言って、アメリカの開拓を進めた開拓者の建物の様式です。下目板張りは

明治5年に北海道の開拓建築のために導入され、次に明治9年に山形県に広まり、それから全国各地に伝わっています。

- 窓の大きさはメートル巾
建物は尺貫法でできていますが、窓の巾は1メートルです。窓ガラス(ギヤマン)も当時からのもので、まだ気泡が入っているガラスが何枚か残っています。

校舎配置

屋代尋常小学校図
(明治三十四年十一月調製)

